

◇高 山 茂 雄 君

○議長（澁谷俊二君） 次に、7番、高山茂雄君の一般質問を許可いたします。高山茂雄君、登壇願います。

（7番 高山茂雄君 登壇）

○7番（高山茂雄君） おはようございます。

通告に従いまして質問をいたします。

出生祝金制度ができて1年ほどになりました。私的には、その方向性において大変結構な制度であると思っております。子育ての政策は、その時々において継続性をもってかなり整備されていると思っております。しかしながら、子供の数は減少している現実もあります。

子供の数についてのアンケート調査を見ますと、もう一人欲しいと思っっている方が相当な割合でおられます。諦める理由の多くは経済的な理由と答えております。昨年、全国での出生数は84万人余りでした。この数字も大変驚愕すべき数字であります。今年にはコロナウイルス感染症の影響もあり、70万人台ではないかと言われております。国において出生に対する直接的な政策が望まれるところであります。

そのような環境で1年経過した出生祝金事業に対し、どのように評価しているのかをまず伺います。また、冒頭で申し上げましたが、方向性は個人的には大いに評価いたします。ただ、規模が小さすぎる気がします。今後、より充実させていくか伺います。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまの御質問にお答えいたします。

出生祝金については、町の次代を担う子供の誕生を祝い、子供の健やかな成長と子育て世代について地域全体で支援していることを認識していただくことで美郷町への定住意識を高めていただくため、令和2年度から開始し、令和2年度については、71人の方に現金3万円と商品券2万円をお渡しするとともに、令和3年度については5月末まで現金5万円を11人の方にお渡ししております。

その評価についてですが、窓口で直接お父さんまたはお母さんに手渡ししており、大変に喜んでいただいておりますので、町としては、この制度に一定の評価をしているところです。

また、実際の出生者数については、年ごとの増減はありますが、全体的には残念ながら減少傾向にあります。その中で、制度開始前の1年間、すなわち令和元年6月から令和2年5月までの出生者数が62人だったのに対し、制度開始後の1年間、すなわち令和2年6月から令和3年5月

までの出生者数は79人となっているところです。

制度の充実についてですが、美郷町を除く県南6自治体の制度を確認したところ、本町と同様に第1子以降5万円を交付している自治体が1自治体、第1子が3万円で第2子以降に5万円交付している自治体が1自治体、第1子と第2子が3万円で第3子以降5万円を交付している自治体が1自治体、第1子以降3万円を交付している自治体が2自治体、制度なしが1自治体となっており、他の自治体と比較しても美郷町の取組は充実しているほうで、当面は現在の制度を継続してまいりたいと存じます。以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「ありません」の声あり）

それでは、次の質問に移ります。

○7番（高山茂雄君） 最近、自動運転のトラクターや田植機での作業風景が最近よく報道されます。大規模な圃場整備により機械も大型となり、自動化も進むものと思われまます。測位衛星を用いた位置計測システムによって動いておりますが、その運用には地上からの補正情報が必要であるということでもあります。今後、さらに情報通信技術を活用した農業経営が進むものと思いますが、地上基地局についての設置要望が今後出てくると思います。町として、このことにどのような考えをお持ちなのかを伺います。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまの御質問にお答えいたします。

農業機械の自動運転については、最近、国や県においてスマート農業の実証事業が取り組まれております。また、農機具メーカーにおいても自動運転機能を備えた農業機械が開発されてきており、町内の経営体においても導入されはじめているところです。

さて、それに関連する位置情報の補正技術については、議員も御承知と存じますが、DGPS方式、RTK方式、VRS方式の複数の方式があります。各方式にはそれぞれの特徴があり、DGPS方式は基地局が不要で初期投資は発生せず、静止衛星による補正信号を無償で利用する方式であるためランニングコストもかからないものの、誤差が50センチメートルから5メートル程と大きいとのこと。

また、RTK方式は誤差が2センチメートル程で小さいものの基地局の設置が必要で、初期費用はメーカーにもよりますが、固定局が400万円程、移動局が100万円程必要とのこと。また、VRS方式は誤差が2センチメートル程で小さく、基地局も不要のため初期投資はかからないもののインターネット回線を通じて補正情報を受信する方式のため、通信料等が年間30万円程発生

するとのことでした。

町では、こうした作業の効率化に関する技術については、今後の営農継続に関して必要な技術と認識しておりますので、要望があった場合には見込む営農形態や周辺の利用希望などを把握した上で初期導入費用や維持管理費用、地区への波及効果などを勘案し、適切な支援策を検討してまいりたいと存じます。以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「ありません」の声あり）

次の質問に移ります。

○7番（高山茂雄君） 最近リニューアルいたしました道の駅に車用の急速充電設備を設置していただきたいと思います。遠方より電気自動車で来られるお客様は道の駅なら充電設備があるという前提で来られると思います。いずれにいたしましても化石燃料の車は今後減ります。電気自動車に変わっていくと思われれます。今は設置しても、その稼働率は低いかと思いますが、道の駅という性格上といたしますか、イメージ的には、この充電設備があると、当然であるというような気もいたしますので、将来的なことも含め、考えをお伺いいたします。

○議長（澁谷俊二君） 答弁を求めます。町長、登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまの御質問にお答えいたします。

電気自動車が目的地までの途中で充電を行う、経路充電地については、電気自動車の普及と相まって年々その必要性が高まってきているものと認識しております。また、その場所については、いろいろな観点があるものと存じますが、交通の要所に存在し、防災拠点にもなる道の駅に整備が必要とする意見が年々多くなってきているようにも感じているところです。

県内の道の駅における充電設備の設置状況についてですが、全33駅のうち3分の2に当たる22駅において設置されております。そのうち、21駅では短時間での充電が可能な急速充電器が設置されているなど、県内において充電インフラの整備が急速に進んでいる状況です。

環境に配慮した電気自動車については、今後ますます普及していくことが予想され、それに伴い充電設備のニーズが高まっていくものと考えておりますので、道の駅の利便性向上等の観点も含めてですが、設置場所の制約や整備費、維持管理費などの諸課題を把握するとともに民間事業者との連携や有利な支援制度などを模索しながら道の駅美郷への設置について検討してまいりたいと存じます。以上です。

○議長（澁谷俊二君） 再質問ありますか。（「ありません」の声あり）

これで、7番、高山茂雄君の一般質問を終わります。